

第5グループ【国際化・文化分野】

国際化・文化分野

みなとタウンフォーラム
第5グループ

第5グループ[メンバー]

朝山 絵里	及川 廣子	佐伯 康雄
佐古田 明	長野 公則	新部 遥希
平澤 富吉	忝山 淳子	山岡 敬明

※メンバーは五十音順



令和5(2023)年3月23日

提言にあたって

第5グループ【国際化・文化分野】

私たち第5グループでは、国際化と文化芸術の2つのテーマを設定し、国際化では「外国人へのサポートの充実」、文化芸術では「文化芸術に触れる機会の創出と支援」について議論を重ねました。

国際化、文化芸術ともに、ウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染症による国際的なパンデミックなど、国際情勢の激動により大きな影響が及んでいます。

加えて、デジタル化が進む社会において、情報発信や収集のあり方も大きく変化しています。

これらの社会変化を踏まえ、国際化と文化芸術に関する提言を考えました。

国際化のテーマに「外国人へのサポートの充実」を取り上げた理由は、多民族化する社会の中で、文化・習慣・宗教の違いによる価値観の相違や行政サービスに対する言葉の壁、また、これにより生じる孤立化・孤独化を課題として認識したためです。

課題の解決に向けて「外国人の相互理解の促進」「外国人に向けた丁寧な情報発信」「外国人の居場所づくり」を施策の方向性として位置づけ、日本人と外国人が垣根を越え相互に理解し、外国人も幸せに暮らすことができるための取組となるよう、意見交換を重ねました。

文化芸術のテーマである「文化芸術に触れ

る機会の創出と支援」については、「文化芸術活動家や区民等に向けた機会の提供」「文化芸術活動家への支援や相談場所の充実」を施策の方向性として位置づけ、誰もが日常的に文化芸術に触れる機会があり、かつ、文化芸術活動家もいきいきと力を発揮できる環境を整備するための取組となるよう、意見交換を重ねました。

また、文化芸術に関する情報発信については、発信はされているが情報が多すぎて把握できないという、社会変化を踏まえた視点での意見を取り入れ、「文化芸術の活動家や区民等に確実に届く情報発信」として施策の方向性に位置づけました。

国際化・文化グループは、本提言を通じて、あらゆる人々が寄り添い、自分らしさを発揮できるまちが実現することを願っています。

この想いに至った理由は、日々、激動する社会情勢の中でも、変わることなく多様性を尊重し合えることが重要と考えたからです。

ウクライナ侵攻をはじめとする国際的な危機や、デジタル化の加速など、我々を取り巻く環境は刻々と変化しています。

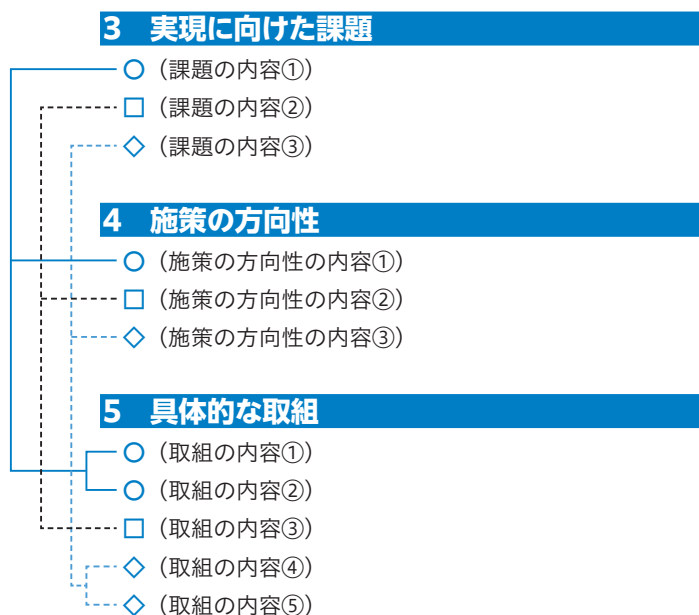
この提言が、港区基本計画に反映されることで、誰もが国籍や文化などの垣根を越えて助け合い、安心して心豊かに暮らせることを願っています。

提言の体系

具体的な取組	
【テーマ1】 外国人へのサポート の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● デジタルを活用した言葉の支援 ● 「やさしい日本語」の浸透 ● 互いの言語に興味を持てる環境づくり ● 外国人が容易に情報収集できるサービスの提供 ● 様々な特性を持った外国人の居場所づくり
【テーマ2】 文化芸術に触れる機 会の創出と支援	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化芸術を創造し、享受できる機会の創出 ● 文化芸術活動家がチャレンジしやすい環境の整備 ● 文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信の工夫

提言書の見方

提言書における、実現に向けた課題や施策の方向性、具体的な取組など、各項目間でつながりがあるものについては、記号（○、□、◇等）によって関連性を明らかにしています。



第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・サイエンス分野】

第4グループ
【地域・コミュニティ分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

第9グループ
【福祉・保健分野】

外国人へのサポートの充実

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「多様な文化の人々と自然にふれ合い、思いやりや活気に溢れ、誰もが安心して自分らしさを発揮できるまち」

個性や能力など「個」の力が、国籍や文化などの違いを問わず活かされ、誰もが「集まりたい」「住みたい」と思えるよう、人々が助け合い、外国人も幸せに暮らせる魅力的な国際都市を目指す。

2 踏まえるべき社会変化

激動する国際情勢

- ・ウクライナ侵攻や新型コロナウイルス感染症をはじめとする国際的なパンデミックなど、国際情勢の激動により、経済やインバウンドなど様々な場面で変化が生じている。

多民族化社会

- ・入管法の改正等により、様々な背景を持ったより多くの外国人が、日本で生活できる環境の整備が進んでいる。

デジタル化

- ・IoTやAIの推進により、情報のデジタル化が加速している。

3 実現に向けた課題

○価値観の相違

- 円滑なコミュニケーションをするための言葉の壁がある。
- 多民族化するなかで、英語や日本語以外のコミュニケーションも必要である。
- 言葉を理解できたとしても、文化・習慣・宗教による考え方の違いを十分に理解できないため、価値観に相違が生まれる。

□理解しやすい情報発信

- 外国人が本当に必要とする情報が何かを区が理解する必要がある。
- 本来受けられるはずの行政サービスについて認知度が低く、外国人が適切にサービスを受けることが難しくなっている。
- 行政サービスに関する広報が多様化しているため、情報をワンストップで得られるように整理をする必要がある。

◇孤立化・孤独化

- 日本人と外国人、あるいは外国人同士で交流する機会をさらに充実させる必要がある。
- 外国人の児童や高齢者などへの心のケアを十分に行う必要がある。

4 施策の方向性

○外国人との相互理解の促進

- 円滑なコミュニケーションを図るため、デジタルアプリの活用や「やさしい日本語」の普及啓発を通じて相互理解の場を設け、お互いの価値観を共有する。

□外国人に向けた丁寧な情報発信を行う

- 情報伝達の方法を改善し、外国人が容易に行政サービスにアクセスできるようにする。

◇外国人の居場所づくり

- 外国人同士や、外国人と日本人と一緒に参加できるような場を設ける。

5 具体的な取組

○デジタルを活用した言葉の支援

- 翻訳アプリを多くの外国人や日本人に日常的に活用してもらえるよう、活用促進のための周知・啓発をする。

○「やさしい日本語」の浸透

- 外国人と日本人の双方に「やさしい日本語」を普及啓発させるための活動を実施する。

○互いの言語に興味を持てる環境づくり

- 日本人や外国人それぞれの文化や習慣について、お互いに知ることができる交流・学びの場を設置する。

□外国人が容易に情報収集できるサービスの提供

- 外国人用に行政サービスの一覧をわかりやすく記したマニュアルを作成し、区ホームページや転入時における配付はもとより、デジタルを活用した周知など、あらゆる機会を通じて情報提供する。

◇様々な特性を持った外国人の居場所づくり

- 児童館や図書館など既存の施設を活用し、交流の場を設ける。
- 国籍や年齢が異なっても仲間となって楽しく遊び共に過ごせるようなイベントを実施する。
- 共通の興味や課題を持ったあらゆる人が、国籍関係なく自然と集まれるような空間をつくる。

6 参画と協働の推進

大使館とのさらなる継続・強固な連携

- 各国と相互の文化や習慣について情報交換し、相互理解を深めていく。
- 区から大使館を通して情報発信してもらうとともに、大使館からの情報を区民へ発信する。

民間企業との連携

- 企業等との連携により、一般区民向けに、多様性に係る研修あるいはセミナーを開催する。

町会・自治会との連携

- 町会・自治会主催のイベントに参加を呼び掛ける。

関係機関との連携

- 社会福祉協議会等、地域の団体が主催する地域のイベント情報を案内する。

文化芸術に触れる機会の創出と支援

1 計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「伝統とモダンが調和した文化芸術が身近に香り、誰もが心の豊かさを育めるまち」

世代や国籍、障害の有無などに関わらず、子どもから大人まで日常の中でさまざまなアートに触れる機会があり、オープンな環境の中で文化芸術活動家がいきいきと力を発揮し、文化芸術を創造できる「港」となれるようなまちを目指す。

2 踏まえるべき社会変化

国際情勢の変化

- 為替や物価の変動、新型コロナウイルス感染症の発生など、国際情勢が変化している。
- 国際情勢の変化が、日常生活にも大きな影響を及ぼしている。

価値観や生活様式の多様化

- 戦争や新型コロナウイルス感染症の発生など、困難な状況に直面し、あらゆる人々の価値観がより多様化している。
- 新しい文化芸術が生まれ、人々の生活様式も多様化していく中で、伝統的な文化芸術に触れる機会が減っている。

デジタル化

- 情報のデジタル化が進み、発信の場が広がっている。

3 実現に向けた課題

○活動する機会・触れる機会が減少

- ・新型コロナウイルス感染症等の影響により、文化芸術の活動の機会が不足している。
- ・区民等が文化芸術に触れることができる機会が少ない。

□文化芸術活動にチャレンジしやすい環境が必要

- ・補助金など、既存の制度を相談することができる場所が不足している。
- ・円安等により海外の芸術家の招へいが難しい状況もあり、国内の文化芸術活動家の育成が必要となっている。

◇文化芸術に関する情報発信の方法

- ・文化芸術に関する情報が発信はされているが、情報が多すぎて把握できない。
- ・区民等が興味を持っている分野の欲しい情報が届かない。

4 施策の方向性

○文化芸術活動家や区民等に向けた機会を提供する

- ・さまざまなアプローチで活動の機会を提供する。
- ・区民等が時間や場所に捉われることなく、文化芸術に触れることができる機会を増やす。

□文化芸術活動家への支援や相談場所の充実

- ・活動するに当たって、創造の場とさまざまな相談をすることができる環境を整備する。

◇文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信

- ・既存の発信方法の見直しや新たな情報伝達手段を検討する。

5 具体的な取組

○文化芸術を創造し、享受できる機会の創出

- 区有施設において、区ならではのイベントを企画・実施する。
- 区内のさまざまな場所・空間において、文化芸術を感じることができる機会を創出する。
- デジタルの技術により、時間や場所に捉われることなく、文化芸術の取組を発信できる環境を整備する。
- 障害などさまざまな背景を持った人も参加できる機会を創出する。
- 子どもが伝統的な文化芸術の取組に触れることができる機会を創出する。
- 伝統と新しい文化を融合させるような機会を創出する。

□文化芸術活動家がチャレンジしやすい環境の整備

- 文化芸術を創造する場を設ける。
- 補助金等による継続的な支援を実施する。
- 文化芸術について、プログラムなども相談できる場を設ける。
- 区の後援名義の申請方法など、行政手続きを支援する。

◇文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信の工夫

- 文化芸術に係るイベントの情報が確実に伝わるよう、映像による広報など工夫する。
- 文化芸術に触れる機会がないという人々に対しても情報が伝わるよう工夫する。
- 区民の文化芸術のニーズをデータベース化し、イベントにつなげていくような仕組みを構築する。

6 参画と協働の推進

大使館と連携した情報発信

- 大使館と連携し、動画を SNS で発信するなど外国人にも文化芸術の取組が伝わりやすいよう工夫する。

他自治体との連携

- 他自治体と連携して、文化芸術の取組を発信できる機会を創出する。

関係機関との連携

- 社会福祉協議会等、地域の団体が主催する地域のイベント情報を案内する。

開催経過

回数	開催日時	内容
第1回	令和4年10月6日(木) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 事務局紹介 グループ会議の進め方について 分野における現状と課題について 検討テーマの選定 リーダー、サブリーダーの選出
第2回	令和4年10月19日(水) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第1回グループ会議の振り返り 検討テーマ「外国人へのサポートの充実」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題と施策の方向性 具体的な取組と区民参画の検討
第3回	令和4年11月1日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第2回グループ会議の振り返り テーマ「外国人へのサポートの充実」に関する議論 これまでの対話の共有 区民参画の検討 文化芸術分野における現状と課題について テーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」に関する議論 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討 実現に向けた課題
第4回	令和4年11月15日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> テーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」に関する議論 具体的な取組と区民参画の検討 施策の方向性
第5回	令和4年11月29日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 第2回～4回目の内容確認について テーマ「外国人へのサポートの充実に向けた取組と課題について」のまとめ
第6回	令和4年12月13日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> テーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」のまとめ
第7回	令和4年12月27日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 提言書（案）の説明
第8回	令和5年1月10日(火) 18時30分～20時30分	<ul style="list-style-type: none"> 提言書の確認について 「提言にあたって」の確認について 提言式について

第1グループ
【街づくり分野】

第2グループ
【防災・生活安全分野】

第3グループ
【環境・リサイクル分野】

第4グループ
【地域コミュニケーション分野】

第5グループ
【国際化・文化分野】

第6グループ
【産業・観光分野】

第7グループ
【子育て・教育分野】

第8グループ
【生涯学習・スポーツ分野】

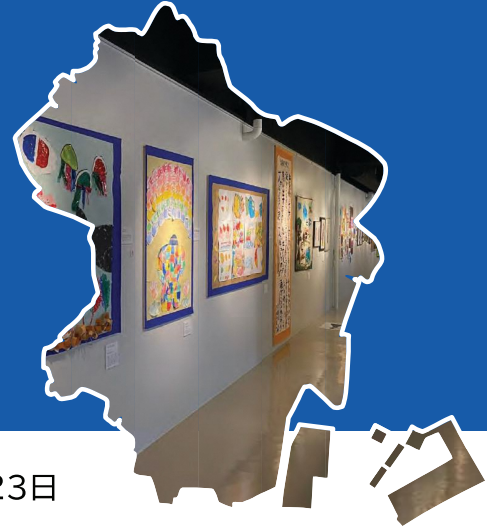
第9グループ
【福祉・保健分野】

第5グループ

国際化・文化分野

テーマ1 外国人へのサポートの充実

テーマ2 文化芸術に触れる機会の創出と支援



みなとタウンフォーラム

令和5年3月23日

テーマ

01

外国人へのサポートの充実

第5グループ
国際化・文化分野

将来像

FUTURE

多様な文化の人々と自然にふれ合い、
思いやりや活気に溢れ、誰もが安心して
自分らしさを発揮できるまち

社会変化

- 激動する国際情勢
- 多民族化社会
- デジタル化

方向性

- 外国人との相互理解の促進
- 外国人に向けた丁寧な情報発信
- 外国人の居場所づくり

取組

- ◇ デジタルを活用した言葉の支援
- ◇ 「やさしい日本語」の浸透
- ◇ 互いの言語に興味を持てる環境づくり
- ◇ 外国人が容易に情報収集できるサービスの提供
- ◇ 様々な特性を持った外国人の居場所づくり

デジタルを活用した
効果的な周知



国籍や年齢に関係なく
集まれる空間づくり



参画と協働

- 大使館とのさらなる継続・強固な連携
- 民間企業との連携
- 町会・自治会との連携
- 関係機関と連携



将来像

伝統とモダンが調和した文化芸術が身近に香り、誰もが心の豊かさを育めるまち

FUTURE



- 国際情勢の変化
- 価値観や生活様式の多様化
- デジタル化

方向性

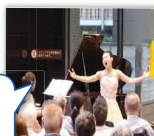
- 文化芸術活動家や区民等に向けた機会の提供
- 文化芸術活動家への支援や相談場所の充実
- 文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信

取組

- ◇ 文化芸術を創造し享受できる機会の創出
- ◇ 文化芸術活動家がチャレンジしやすい環境の整備
- ◇ 文化芸術活動家や区民等に確実に届く情報発信の工夫



様々な背景を持った人が参加できる環境づくり



プログラムを相談できる場所づくり



文化芸術に触れる機会が無い人にも伝わる工夫



参画と協働



- 大使館と連携した情報発信
- 他自治体との連携
- 関係機関と連携



まとめ

Q. この提言を通じて、港区がどのようなまちになってほしいか

A. 港区に関わるあらゆる人々が、国籍や文化などの違いを問わず異文化の垣根を越えて助け合い、誰もが安心して心豊かに暮らせることを願っています。

激動する国際情勢やデジタル化など大きな変化をむかえている



大きな社会変化の中でも変わることなく多様性を尊重しあえることが重要

今の社会は・・・



だからこそ・・・



みなとタウンフォーラム

会議録

みなとタウンフォーラム 国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第1回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月6日（木）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業地域振興支援部会議室

メンバー：7名

事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 事務局紹介
- 2 グループ会議の進め方について
- 3 分野における現状と課題について
- 4 検討テーマの選定
- 5 リーダー、サブリーダーの選出
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	事務局名簿
2	グループ会議の検討スケジュール
3	提言の構成について
3-2	提言の取りまとめイメージ
3-3	前回みなとタウンフォーラム提言書（国際化・文化分野）
4	検討希望テーマ集計結果
5	リーダー、サブリーダーの役割について
参考資料	国際化推進及び文化芸術振興のプラン概要

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第1回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

1 事務局紹介

事務局より、配布資料1に基づき、事務局メンバーの紹介を行った。

2 グループ会議の進め方について

○検討スケジュール

事務局より、配布資料2に基づき、活動日程や内容について説明を行った。

○提言の構成

事務局より、配布資料3、3-2、3-3に基づき、提言の構成について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：なし

事務局：なし

3 分野における現状と課題について

関係課長より、港区基本計画に基づき、国際化推進及び文化芸術振興に関連する施策や取組について概要の説明を行った。

(主な意見等)

参加者：【質問】文化芸術ホールの目的はなにか。

事務局：【回答】平成18年の港区文化芸術振興条例の基本理念である「年齢、障害、国籍問わず全ての区民が同じように文化芸術振興を鑑賞・参加・創造することができるように環境を整備」を達成するための文化拠点。

参加者：【意見】障害者の文化芸術活動の推進について、障害者の鑑賞率・活動率は区民全体と比較して2割低いという調査結果があるが、障害の程度によってこの数値は変わってくるのではないかと（ミスリードにならないか）。

事務局：【回答】各障害の程度を考慮して出した数値ではない。たしかに障害の程度によって変わってくる可能性はあり、それを鑑みて推進していく必要がある。

参加者：【質問】港区の外国人人口の目標はあるのか。増やしていきたいのか。

事務局：【回答】人口数についての目標は定めていない。「今港区で生活している区民（外国人に限らず）の暮らしをよりよくしていきたい」という目標はある。

参加者：【意見】港区はより広報活動に力を入れていくべきなのではないか。

事務局：【回答】情報発信は長年の課題である。広報みなどやホームページ、港区チャンネル等の情報発信のツールは充実させてきている。しかし、情報発信のツールを整備しても、区民が無関心な情報への関心がなければ広報活動の意味をなさない。情報の内容にも工夫を凝らしていく必要がある。

参加者：【意見】地区によって情報のニーズが異なることもある。総合支所を活用して、地域ニーズに沿う情報提供を行うのも良いのではないかと。

事務局：【回答】検討する。

4 検討テーマの選定について

事務局より、配布資料4に基づき、参加者へ事前に調査した検討希望テーマの集計結果について説明を行った。集計結果としては、多い順に、「外国人へのサポートの充実」、「国際都市の実現」と「文化・芸術活動の支援」が同率、次いで「文化・芸術に触れる機会の創出」、「外国人との相互理解の促進」、「その他（国際化の新たな視点）」となった。

集計結果を踏まえて、検討テーマについて議論が行われた。

(主な意見等)

参加者：「外国人へのサポートの充実」について日本語学習だけでなく、生活に密着した情報提供や支援を充実させたい（生活における行政サービスの向上）。外国人サポートを充実させることによって、国際社会へのPRにもなる。

参加者：「環境変化に対応した国際化の新たな視点」について国際化は環境の変化に影響を受けやすい。特に近年は、新型コロナウイルス蔓延により様々な行政サービスが上手く運営できていなかったと思う。もう少し環境の変化に対して柔軟に対応できる施策を考えてみるべきなのではないか。そのためには国際化の課題や状況に対して視野を広げていく必要がある。

参加者：「文化・芸術活動の支援」について区民の文化に触れられる機会や文化交流を活発にさせるは資金面のサポートも必要不可欠。区民に本物の文化・芸術に触れてもらい、身近に感じられる（親しみをもてる）活動の支援をしたい。

参加者：文化・芸術の活動支援を行うことで区民の文化・芸術に触れる機会の創出に繋がっていくのではないかと。

5 リーダー、サブリーダーの選出について

グループ会議運営に当たってのグループリーダー、サブリーダーがメンバーの互選により選出された。リーダー、サブリーダーより、就任挨拶が行われた。

(主な意見等)

参加者：なし

事務局：なし

6 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに「外国人へのサポートの充実」「文化芸術に触れる機会の創出と支援」「環境変化に対応した国際化の新たな視点」について、現状や課題に関する意見を各自まとめてくることが確認された。

(閉会)

事務局が第1回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第2回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年10月19日（水）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室

メンバー：7名

事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第1回グループ会議）の振り返り
- 2 第2回グループ会議の進め方について
- 3 検討テーマに関する議論
 - ・ 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・ 実現に向けた課題と施策の方向性
 - ・ 具体的な取組と区民参画の検討
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第1回グループ会議 会議録
2	第2回グループ会議の進め方
3	外国人へのサポートの充実に向けた取組と課題について
4	SDGsの資料

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第2回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。

前回(第1回グループ会議)の振り返りとテーマ設定についての確認を行った。

第5グループリーダーがメンバーに対し第1回グループ会議の議事録の確認を行った。

1 第2回グループ会議の進め方について

事務局より、配布資料2に基づき、グループ会議の目的・目標及び当日の会議内容について説明を行った。

2 国際化分野における現状と課題について

関係課長より、配布資料3及び4に基づき、SDGs(持続可能な開発目標)と「外国人へのサポートの充実」に向けた取組と課題について説明を行った。

(主な意見等)

参加者：【質問】SDGsで目標として定められている17項目は何を元としているのか。

事務局：SDGsは平成27年9月に開催された国際持続可能な開発サミットで採択されたものである。「だれ一人取り残さない」という基本理念を元に現在国際社会で抱えている課題解決に向けて、17の目標を設定した。この目標は平成28年から令和12年の15年間で達成することを目指しており、毎年評価される。評価の達成度はロゴの色味で区別されている。

参加者：【意見】「外国人へのサポートの充実」に向けた取組の対象には、港区に在住している外国人だけではなく、訪日外国人観光客(インバウンド)も考える必要があるのではないか。

事務局：現時点では対象について制限はない。課題によっては議論する必要もあるかもしれない。

参加者：【意見】対象を絞ったほうが議論の方向性が明確になるのではないか。

事務局：議論が進むにつれて対象が絞られていくと思われる。「外国人へのサポートについて」活発に意見交換をしていただきたいので現時点では特に対象関係なく議論してもらいたい。

参加者：【質問】人口統計について、従来日本国籍の人口と外国人登録者数を分けて集計していたが、その区別がなくなった。この変化により外国人の権利、義務、区の行政サービスに差異はあるのか。

事務局：差異はない。従来では外国人は外国人登録、日本国籍の人は住民登録で分けていたため、それぞれの集計ができていた。しかし、平成22年に住民登録が一本化されたため、まとめて集計する形となった。

3 検討テーマに関する議論について

検討テーマを元に将来像(めざすまちの姿)と社会変化の検討、実現に向けた課題と施策の方向性について少数人数のグループごとに議論を行った。

4 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに検討テーマに関する課題解決に向けた区民の参画と協働について意見を各自まとめてくることが確認された。

(閉会)

事務局が第2回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第3回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月1日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室

メンバー：8名

事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 前回（第2回グループ会議）の振り返り
- 2 第3回グループ会議の進め方について
- 3 テーマ「外国人へのサポートの充実」に関する議論
 - ・ これまでの対話の共有
 - ・ 区民参画の検討
- 4 文化・芸術分野における現状と課題について
- 5 テーマ「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」に関する議論
 - ・ 将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討
 - ・ 実現に向けた課題
- 6 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
1	第2回グループ会議 会議録
2	外国人へのサポートの充実に向けた取組と課題について
3	文化・芸術に触れる機会の創出と支援に向けた課題について

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

事務局より、第3回グループ会議開催に当たっての挨拶及び開会宣言を行った。
前回(第2回グループ会議)の振り返りを行った。

1 第3回グループ会議の進め方について

事務局より、グループ会議の目的・目標及び当日の会議内容について説明を行った。

2 検討テーマに関する議論について(テーマ:外国人へのサポートの充実)

前回会議に引き続き、「外国人へのサポートの充実」における区民参画について議論を行った。

(主な意見等)

参加者:【意見】港区には大使館が多くあることを生かすことで、国際交流のきっかけを作れるのではないかと。また、外国人へのサポートの充実を図るためには、外国人が必要としている事柄に常にアンテナを張っておく必要がある。言葉の壁を解消するためにも、語学教育にも力を入れていくべきなのではないかと。

参加者:【意見】外国人、日本人問わず区民同士がそれぞれの文化やルールに理解を深め合うことが重要。大使館等国際施設と連携して国際交流を図ったり、町会等身近なコミュニティでの区民交流等の場をつくったりすることも必要なのではないかと。

参加者:【意見】日本人、外国人問わず老若男女が参加できる機会(イベント等)をつくったり、参加したりすることで、互いが助けあえるきっかけとなるのではないかと。

3 文化・芸術分野における現状と課題について

関係課長より、配布資料3に基づき、「文化・芸術に触れる機会の創出と支援に向けた取組及び課題」について説明を行った。

(主な意見等)

参加者:【質問】ロビーコンサートの演奏者に対して補助金は出しているのか。

事務局:補助金は出していない。あくまで発表する場を提供しているだけである。

参加者:【意見】先日ロビーコンサートが行われたが演奏時間が短いように思う。また、このような機会の場をもっと増やしてほしい。

事務局:今年度は1団体20分の2部制にして行っている。またコロナ禍で演奏者(参加者)からも発表の場の提供について要望も増えているため、検討していきたい。

参加者:【質問】文化・芸術にはスポーツは含まれないのか(国際化・文化グループでスポーツについて議論する必要はないのか)。

事務局:本来であればスポーツも文化・芸術も生涯学習スポーツ振興課及び教育委員会が主管轄分野である。しかし、実情では国際化・文化の分野については産業・地域振興支援部が主管轄になっているところがあるため、本グループで議論する必要があると考える。一方、スポーツは教育委員会(生涯学習スポーツ振興課)のグループで議論しているため、本グループで議論する必要はないと思われる。区としてもこの分野での区別(規定の整備等)は今後の課題であると認識している。

参加者：【意見】以前、文化イベントを開催するに当たり、助成金を申請したが審査がかなり厳しい印象を受けた。

事務局：手続き等については申請側が申請しやすい体制を整備していく必要がある。今後の課題として改善できるよう取り組んでいきたい。

参加者：【意見】以前、日本の伝統文化（万葉集）についてのイベントを伝統文化交流会館で行い、様々な人たちが参加してくれた。区も文化に関する事業を積極的に行ってほしい。

事務局：非金銭的な支援として、国際的な要素を取り入れながら文化交流等の事業も検討していきたい。また、区民の文化団体の企画にも行政が積極的に支援していきたいと考える。

4 検討テーマに関する議論について（テーマ：「文化・芸術に触れる機会の創出と支援について」）

検討テーマを元に将来像（めざすまちの姿）と社会変化の検討、実現に向けた課題と施策の方向性について少数人数のグループごとに議論を行った。

（主な意見等）

参加者：【意見】そもそも文化・芸術に触れる機会が少ないことが課題である。多様性に富んだ文化・芸術に触れるためにも、そういった機会をバックアップできるような環境づくりが必要である。港区は主に5つの地区で分けられており、地区ごとに特色があると思う。そのような地区の特色も考慮した上で文化・芸術に関する課題も検討することも重要なのではないかと考える。

参加者：【意見】国内だけでなく海外情勢により国外の文化・芸術にも触れる機会が減少しているのが現状である。またデジタル化等により国内の伝統文化も変化してきている。文化・芸術分野の課題解決に向けて、そういった環境の変化にも対応できるような取組を考えていかなければならない。

5 その他

事務局より次回の開催日程等の確認を行い、次回までに検討テーマ（文化・芸術に触れる機会の創出と支援）に関する具体的な取組について意見を各自まとめてくることが確認された。

（閉会）

事務局が第3回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第4回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月15日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室

メンバー：6名

事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

開会

- 1 第4回グループ会議の進め方について
- 2 テーマ「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」に関する議論
 - ・ 具体的な取組と区民参画の検討
 - ・ 施策の方向性
- 3 その他

閉会

■配付資料

資料番号	資料名
1	第3回グループ会議 会議録
2	文化・芸術に触れる機会の創出と支援に向けた課題について

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

第5グループサブリーダーより開会宣言、事務局より、第4回グループ会議開催に当たっての挨拶及び前回(第3回グループ会議)の振り返りを行った。

1 第4回グループ会議の進め方について

事務局より、グループ会議の目的・目標及び当日の会議内容について説明を行った。

2 検討テーマに関する議論について(テーマ:文化・芸術に触れる機会の創出と支援)

前回会議に引き続き、「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」における具体的取組と区民参画及び施策の方向性について議論を行った。

(主な意見等)

参加者:【意見】文化・芸術に関する事柄の受入れ及び発信に力をいれる。そのためには他都市とのコラボレーション(例として高岡市との協働で行った万葉集のイベントなど)を積極的に企画する。障害の方などを含め様々な特性をもった人たち、全ての人が文化・芸術活動に参加や企画がしやすい環境の整備を行っていききたい。文化・芸術の活動を継続的に行える支援の充実を図りたい。オンライン配信や映像化は外国人もわかりやすい。ITのツールを使うとコストダウンになり、継続的な支援ができるのではないかと考える

参加者:【意見】区民が主役で、暮らしに根づいたアートを発信していく。高齢者が置き去りになりがちだが、「オイ・ボッケ・シ」という自虐的な名を付けて活動している劇団が岡山にある。港区も公演の依頼や情報の発信など行えばよいのではないか。一方若者では発表の場が必要ではないか。例えば盆踊りなど自然に体が動き、外国人も子どもも参加しやすいし、区民まつりにも発展するのではないか。オープンスペースを活用すると、だれでも楽しめるイベントが可能になる。事務局側の協力の下に、文化・芸術の情報を発信・受信し、充実していくのが課題。今までやってきた事をアップデートし、いつでもだれでもアクセスすれば情報が得られる仕組みづくりが必要になると考える。

3 その他

事務局より次回の開催日程等及び次回の会議内容の確認を行った。

(閉会)

事務局が第4回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第5回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年11月29日（火）18時30分～20時30分
会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室
メンバー：8名
事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 第5回グループ会議の進め方について
- 2 第2回～4回目の内容確認について
- 3 テーマ「外国人へのサポートの充実に向けた取組と課題について」のまとめ
- 4 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
資料1	第4回グループ会議 会議録
資料2	テーマ「外国人へのサポートの充実に向けた取組と課題について」
参考資料1	提言の構成について
参考資料2	前回提言書

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

第5グループリーダーより開会宣言、事務局より、第5回グループ会議開催に当たっての挨拶及び前回(第4回グループ会議)の振り返りを行った。

1 第5回グループ会議の進め方について

事務局より、第5回目からのグループ会議の目的や到達点について説明を行った。

2 第2回～4回目の内容確認について

事務局より、第2回～4回目のグループ会において行った意見交換を振り返った。

また、その意見交換において出た意見が資料2「外国人へのサポートの充実に向けた取組」にまとめられていることを説明した。

3 テーマ「外国人へのサポートの充実に向けた取組」のまとめ

資料2「外国人へのサポートの充実に向けた取組」の提言をまとめるに当たって、これまでのメンバーから寄せられた意見(以下のとおり)について、抜け漏れ等が無いかな整理した。

(1) めざすべきまちの姿(将来像)

- ・ 日本一の国際都市(区)
- ・ 資格の有無を問わず助けあえるまち(「共助」の創出)
- ・ 国籍・特性問わず誰もが気軽にイベント等に参加できる雰囲気があるまち
- ・ トップレベルの人材が集まるまち
- ・ 自然と異文化交流ができるまち
- ・ 個人の強みが活かされて現在・未来につながる明るい社会があるまち
- ・ 相手のことに配慮した言動と自分らしさが発揮できるまち
- ・ 日常生活において差別がない国際的なまち
- ・ 外国人も安心して暮らせるきれいなまち
- ・ 産官学民に活気があるまち
- ・ 大使館等国際的機関(施設)から最新で正しい情報が得られるまち

(2) 踏まえるべき社会変化

- ・ IT化
- ・ 高齢者社会
- ・ 円安(円をもっている外国人の貧富の差に拍車をかけてしまうおそれあり)
- ・ パンデミック(コロナ等)
- ・ 遠隔コミュニケーションの発達(対面コミュニケーション機会の減少)
- ・ インバウンドの激増
- ・ 日本で暮らす外国人の国籍の多様化

(3) 実現に向けた課題

○外国人との相互理解の促進

- ・ 互い（文化・習慣）を理解しあうためのコミュニケーション力の向上
- ・ 言語の壁（日本語と外国語）
- ・ 快適に生活を送るための日本語力の獲得
- ・ 日本人の外国語に対する苦手意識の改善
- ・ 歴史的背景による人種に対する考え方のちがい
- ・ イデオロギーの壁
- ・ 環境の変化に合わせた日本人と外国人双方のメンタリティの獲得
- ・ 宗教上の習慣等に対する支援と理解（環境設備等）

○外国人に向けた丁寧な情報発信

- ・ 広報の多様化
- ・ 外国人が本当に必要としている情報の収集
- ・ 受けられる行政サービスの差異（日本人と外国人で
- ・ 受けられるサービスのちがいがある）
- ・ 本来受けられるはず社会的サービスの認知の低さ
- ・ 行政情報の整備と整理

○様々な特性をもった外国人の居場所づくり

- ・ 全庁横断した外国人のサポート（児童、高齢者、子育て世帯、障害者）

(4) 具体的な取組

○外国人との相互理解の促進

- ・ 語学学習への支援（教える側、教えられる側両方）
- ・ 言語翻訳ツールの活用促進
- ・ やさしい日本語の普及活動
- ・ 外国語に興味をもてる環境づくり
- ・ 相談窓口の充実

○外国人に向けた丁寧な情報発信

- ・ 日常生活において国際化意識のある若者に調査等に協力してもらう
- ・ 港区のHPの有効活用
- ・ わかりやすい行政サービスの紹介マニュアルをつくる
- ・ AI・コンシェルジュの設置・活用（対象が必要としているサービスを紹介する相談窓口）
- ・ サービス提供側に対する補助金制度の創設

○様々な特性をもった外国人の居場所づくり

- ・ 各種イベントの開催
- ・ 働く場の紹介・提供の支援
- ・ 親子で活動できるイベント（ヨガ教室や読み聞かせ）

- ・ 通い続けたいくなるようなデイサービスの設置
- ・ 区営クラブの活用促進
- ・ 既存の施設の活用（交流の場の提供）
- ・ 交流に対する参加希望者と活動のマッチングサポート（区主体）

（５）参画と協働の推進

○外国人との相互理解の促進

- ・ 外資系企業との連携
- ・ 外資系企業が社内で実施している多様性に関する研修を一般区民に向けて研修を行う（プロフェッショナルの指導の下、互いに歩み寄るきっかけをつくる）
- ・ 大使館との連携
- ・ 各大使館にヒアリングを行い、様々な社会変化に対する対応を比較し、各国の特徴や文化の違いへの理解を深める
- ・ 町会・自治会との連携
- ・ 町内会自治会主催のイベントに参加を呼びかける

○外国人に向けた丁寧な情報発信

- ・ 区民同士の情報共有
- ・ 教育機関との連携
- ・ 区民も発信されている情報に興味をもつ
- ・ 大使館から多様な情報をさらに引き出す

○様々な特性をもった外国人の居場所づくり

- ・ 地域コミュニティ主催のイベント等に参加を呼びかける（様々なコミュニティに参加することによって相互理解が高まる）

最初に「外国人へのサポート」に係る提言書に記載する「めざすべきまちの姿」について各自二つ提出した上で議論を行った。提出された意見は以下のとおり。

- ・ コスモポリタンが集うまち
- ・ 真の価値観が理解されるまち
- ・ 港区は一期一会の似合うまち、文化・芸術交流のみなど
- ・ 外国人と日本人と自然な交流を通じて活気がある、誰もが安心して暮らせるきれいなまち
- ・ 国際性問わず個人の強みが活かされて現在・未来につながる明るいまち
- ・ 多様な価値観を受け止め共感できるまち
- ・ ITにアクセスしやすく安心して暮らせるまち
- ・ 気軽に誰でも相談できるまち
- ・ 自然と異文化交流ができ誰でも相談できる、垣根なく
- ・ 日本一の国際都市として安心して暮らせるきれいなまち

これらのフレーズをもとに文章を事務局で作成し、メンバー全員が同じ考えで理想の将来像をつくることを確認した。

(主な意見等)

○IT化

⇒『デジタル化』に修正

○円安

事務局：今回の基本計画の最終年度は令和8年度である。その頃どうなっているか、円安という表現を修正するか。

参加者：経済用語を用いることで利益主導型になってしまうのではないか。円安というキーワードは日本全体と外国人が多い港区に特化した場合と意味合いが変わってくる。経済に限らず、様々な国際状況の変化も留意すべきだと考える。

⇒『激動する国際情勢』を追加

○インバウンドの激増

参加者：インバウンドは激増もあれば激減もあるし復活もある。現在は増えている傾向がある。

⇒『インバウンドの変化』に変更

○イデオロギーの壁

参加者：イデオロギーとは、価値観の相違である。

⇒『価値観の相違』に変更

○外国語に興味をもてる環境づくり（外国人との相互理解の促進に関して）

参加者：日本人が外国語に興味を持つことも重要だが、外国人が日本で生活していくのであれば外国人が日本語に積極的に触れられる機会をつくることも重要である。

⇒『日本語に興味をもてる環境づくり』に変更

○様々な特性をもった外国人の居場所づくり

参加者：日本の学校に通学している外国人の子どもは文化の違い等で精神的に負担を感じることも多い。そういった子どもの心のケアを充実させるためにも、学校全体で日本語支援に取り組むべきではないか。

⇒『学校に通っている外国人児童の心のケアを充実させる日本語支援』を取組に追加

○大使館との連携（外国人との相互理解の促進に関して）

参加者：港区は大使館が多いという特色があるが、実際大使館は港区の連携することには前向きなのか。また、すでに連携体制は整っているのではないか。

事務局：大使館数が多いということもあるが、全国の自治体の中でトップレベルに大使館との連携を図ることができている。イベントを主催すること（自国の文化発信すること）が難しい国とも実際港区と連携して主催したイベントもある。連携自体は比較的整っていると考える。

⇒『大使館とのさらなる継続・強固な連携』に変更

○今後のまとめ方について

事務局：今回整理した意見を基に、提言をまとめていく。

4 その他

事務局より次回の開催日程等及び次回の会議内容の確認を行った。

(閉会)

事務局が第5回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第6回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月13日（火）18時30分～20時30分
会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室
メンバー：8名
事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 第6回グループ会議の進め方について
- 2 テーマ2「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」のまとめ
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
資料1	第5回グループ会議 会議録
資料2	テーマ2「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

第5グループリーダーより開催宣言、事務局より第6回グループ会議開催に当たっての挨拶及び前回(第5回グループ会議)の振り返りを行った。

1 第6回グループ会議の進め方について

事務局より、第6回目からのグループ会議の目的・目標及び当日の会議内容について説明を行った。また、第5回グループ会議の議事録(テーマ「外国人へのサポートの充実に向けた取組」)の確認を行った。

(1) 踏まえるべき社会変化

○IT化について

参加者：前回の会議にてIT化ではなくデジタル化に修正したはず。

⇒『デジタル化』へ変更

(主な意見等)のところにもIT化はデジタル化という文言を掲載いただきたい。

(2) 実現に向けた課題

○イデオロギーの壁

参加者：議事録3ページ目「イデオロギーの壁」という表現は強すぎると思う。前回「価値観の相違」に修正したはず。

事務局：第5回議事録の3ページの記載内容は、第5回以前に出た意見をそのまま載せている。会議で討論された修正内容は、5ページ以降に掲載している。

2 テーマ2「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」のまとめ

資料2「文化・芸術に触れる機会の創出と支援」の提言をまとめるに当たって、これまでメンバーから寄せられた意見(以下のとおり)について、抜け漏れ等がないか整理した。また追加項目等の有無も確認した。

(1) 踏まえるべき社会変化 ※前回以前の会議にて出た意見のまとめ

- ・ 日本経済の低迷：予算(金銭)のひっ迫⇒難しくなってくる
- ・ 費用対効果・優先度
- ・ 格差社会の出現、文化・芸術が富裕層の娯楽化
- ・ 西洋文化の台頭、日本伝統文化芸能の停滞
- ・ 日本の伝統芸能の推進者の高齢化に伴い、日本の伝統文化が全体としてシュリンクしている
- ・ イデオロギーの多様化
- ・ 港区が国際都市ゆえに逆に区としての特徴がない
- ・ 子どもたちの多様化、習い事が多くなり、文化・芸術に触れる機会の減少
- ・ 少子化、お受験、核家族化等で、文化継承の課題や、若者の意見が反映されにくくなる
- ・ 保育園、幼稚園との連携
- ・ 円安や、インフレで生活に余裕がなくなる
- ・ 大学入試の形式が日本従来の詰めこみ⇒個人の特性を評価する形式になればプロフェッショ

ナルレベルまで十分に時間をさける。

- ・ デジタル化やITで伝統文化が分かる
- ・ 円安で海外の演奏家を招聘できない⇒チケット代の高騰⇒補助（支援）が必要
- ・ コロナ感染拡大の影響で公演が中止となり、演じ手は、発表の場や収入が無くなる
- ・ 平和な世の中でないと文化・芸術が深まらない、継続性の大切さ、震災や戦争のときには本当に必要か？と思われている
- ・ 実際に戦争が起きて文化・芸術が見直される、「心の豊かさ」が文化・芸術によって違ってくる

（主な意見等） ※前回以前の会議にて出た事柄についての意見

○イデオロギーの多様化

参加者：「イデオロギー」という表現が強い。価値観の多様性の方が良いのではないか。

⇒『価値観の多様性』に変更

○保育園、幼稚園との連携

参加者：「保育園、幼稚園との連携」はどのような社会変化が起きるのか。

参加者：伝統文化の推進者が高齢化になり継承の課題や、幼少期から日本の伝統芸能に触れる環境の整備に保育園、幼稚園との連携の必要性は高まっていると考える。

⇒『保育園、幼稚園との連携の必要性が高まっている』に変更

○実際に戦争が起きて文化・芸術が見直される、「心の豊かさ」が文化・芸術によって違ってくる。

参加者：「心の豊かさ」が違ってくるといのは何を指しているのか。文化・芸術の見直しによって、心の豊かさも見直されるという意味なのか。

⇒『実際に戦争が起きて文化・芸術が見直される。文化・芸術によって心の豊かさがより培われる』に変更

○踏まえるべき社会変化について キーワードを付箋に記入し各自提出した。提出された意見は以下のとおり。

- ・ デジタル化、DX化の推進
- ・ 心の豊かさの重要性
- ・ 価値観の多様化
- ・ 文化・芸術の娯楽化、贅沢品化
- ・ 文化・芸術分野での予算の減少
- ・ 文化芸術心の豊かさ
- ・ 国際経済情勢（円安、インフレ等）
- ・ 国際情勢の急激な変化
- ・ 日本の伝統文化、伝統芸能の停滞
- ・ 伝統芸能の推進者の高齢化
- ・ 日本の伝統文化のシュリンク（縮小）
- ・ 心の豊かさの重要性
- ・ 予算（文化・芸術）の減少

(2)実現に向けた課題 ※前回以前の会議にて出た意見のまとめ

○文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援

- ・ ホールの空き状況などを各施設が情報共有し区民に還元できる仕組みが必要
- ・ コロナ当による公演の中止
- ・ 多様性を保持するもの
- ・ 文化・芸術に対する理解不足、触れる機会がない
- ・ コンサートや茶道の募集など発表する機会がない、支援が欲しい
- ・ バレエ×日本舞踊×茶道のコラボするアイディアはあるが、発表する機会、場所が不足

○文化・芸術の発信者のための相談方法の充実

- ・ 相談の場の提供が必要
- ・ 多様性を保証するものや、評価の前に助成する対象が不明確
- ・ 助成金に対する情報発信不足（非金銭的支援が必要）
- ・ 日本の演奏家をどのように育てるのかビジョンが必要
- ・ 継続するには支援が必要
- ・ 若者の未来につながる仮想空間の模索、新しい文化の創設

○団体に確実に届く情報発信

- ・ 文化・芸術に関するイベントが各所管で開催するため情報が氾濫し区民が的確に把握できない
- ・ 情報が届かない（興味があってもすでに終わっていたことがある）一括に情報がまとまっていない
- ・ 学校へのアプローチが直接できない
- ・ 洋風文化か和の文化か、区の方針は
- ・ 大使館からの前向きな協力を更に引き出す、情報のアプローチが必要

(主な意見等) ※前回以前の会議にて出た事柄についての意見

○文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援

《コロナ当による公演の中止》

参加者：「当」は「等」なのではないか。

⇒『コロナ等による公演の中止』に変更

○団体に確実に届く情報発信

《洋風文化か和の文化か、区の方針は》

参加者：文章が途中で終わっているように思えるが、続きはあるのか

事務局：付箋には「洋か和か」「区の方針」と記載されていた文言をそのまま記載した。

⇒『洋風文化か和の文化か、区の方針は？』に変更

(3)【実現に向けた課題について】

キーワードを付箋に記入し各自提出した。提出された意見は以下のとおり。

○文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援

- ・ 日本文化・芸能と西洋文化・芸能のコラボレーションのための支援
- ・ 施設・発表の場（機会）の不足

- ・ 「場」の提供
- ・ アイディアはあるが発表する機会や場所が不足
- ・ 活動の機会支援
- ・ 文化・芸術の触れる機会の創出
- ・ 日本文化・伝統に根づく礼節の見直し
- ・ 親しみにくい文化・芸能や見過ごされている文化・芸能に対する支援強化

○文化・芸術の発信者のための相談方法の充実

- ・ 日本の演奏家をどのように育てるのかについてのビジョン
- ・ 若者の未来に繋がる仮想空間の模索
- ・ 若い芸術家のチャレンジの不足
- ・ 助成金の充実と情報発信の充実
- ・ 日本の文化・芸能の後継者育成支援

○団体に確実に届く情報発信

- ・ 大使館からの前向きな協力をさらに引き出す情報のアプローチ
- ・ 情報の氾濫
- ・ 情報の整理、コントロール
- ・ コンサートやイベントの情報発信不足
- ・ 継続するには支援が必要
- ・ 若者の未来につながる仮想空間の模索
- ・ 情報発信の工夫（期間限定のイベント等は情報発信しやすいのでは）
- ・ 情報が届かない、発信方法にもうひと工夫が必要

（４）施策の方向性

（主な意見等）※前回以前の会議にて出た事柄についての意見

○方針①「団体への活動場所や機会の提供」

参加者：「団体」とは具体的になにを指すのか。

事務局：文化・芸術を担う全ての団体。個人も含んでおり、特定するものでもない。広義的な意味で解釈していただきたい。

参加者：団体という表現だと、個人がおざなりになっているように思える。

参加者：方針①「団体への活動場所や機会の提供」と②「団体への支援や相談場所の充実」が混在しているようにも思える。

○方針②「団体への支援や相談場所の充実」

参加者：相談場所というのは実際に相談員がいて、相談所というイメージである。現在には電話やメールで対応するなど相談方法は多様化している。相談方法の充実のほうに適しているのではないか。

○文化・芸術の発信者のための相談方法の充実

≪継続的な支援（助成金）の実施≫

参加者：区の継続的な支援を行っている窓口はどこなのか。

事務局：現在はK i s s ポート財団でやっている。助成金も国、都など多岐にわたり書類も煩雑でわかりづらい。非金銭的な支援として、目立たせる事も必要か。K i s s ポート財団は区の外郭団体であり、必要に応じて区も指導していく役割がある。非金銭的支援の窓口として必要と提言としていただきたい。

施策の方向性下記①及び②に修正のうえ確認した

- ①『文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援』
- ②『文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援』

（５）具体的な取組

キーワードを付箋に記入し各自提出した。提出された意見は以下のとおり。

○文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援

- ・ 野外コンサートのようなイベントが自然とたくさん開催できるような雰囲気づくりと数多くの実施
- ・ 他の自治体とのコラボレーションへの理解
- ・ イベントの定例化
- ・ デジタル化の推進、創意工夫（オンライン参加イベントの実施）
- ・ 文化芸術ホールで港区らしいイベントの企画
- ・ まちの至るところでコンサート
- ・ 伝統文化交流館での日本と西洋文化・芸能のコラボイベント
- ・ 日本文化・芸能の外国人の参加イベント
- ・ 日本文化・芸能の小中学校への出張授業
- ・ 学校における日本文化・芸能の本物に触れさせる機会の提供
- ・ 日本文化・芸能と西洋文化・芸能とのコラボイベントの開催

○文化・芸術の発信者のための相談方法の充実

- ・ 若者の未来につながる仮想空間の模索
- ・ イベントのマニュアル化、パッケージ化
- ・ 文化芸術の発信者が実施するプログラムの相談窓口の設置

○区民に確実に届く情報発信

- ・ 情報を映像で提供する
- ・ 情報を整理し広報を一本化する
- ・ 区民の文化・芸術のニーズをデータベース化し、イベントにつなげていく
- ・ 日本文化・伝統芸能の発信と提供

（６）参画と協働の推進 ※前回以前の会議にて出た意見のまとめ

- ・ 多様な属性の人が活発に参加できる、ニュースタイル盆踊りの実施。

- ・ 港区の伝統と進化の結合を区民が担い区民が主役のイベントの実施。
- ・ 演奏家を登録制にして、必要な時に派遣できる制度。
- ・ 大使館との公開イベント交流会の実施。
- ・ 多様な区民が創り出すアート活動

○文化・芸術の発信者のための相談方法の充実

- ・ 区民が継続的に参加できるオンライン参加イベントの実施。
- ・ 後援名義の推進（チラシの配布先の増）。

○区民に確実に届く情報発信

- ・ 港区社会福祉協議会のサロン活動等、障害者も参加できるイベントを実施。
- ・ 広報に小規模なイベントも発信できる仕組み。
- ・ 区のホームページで、活動団体と区の職員がイベント等で苦労点、工夫したことなどを公開し参考にしてもらう。

(主な意見等) ※前回以前の会議にて出た事柄についての意見

○文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援

≪港区の伝統と進化の結合を区民が担い区民が主役のイベントの実施≫

参加者：「進化の結合」はイメージが難しい。もう少し分かりやすい表現のほうが良い。

⇒『新しい文化と伝統文化の融合を区民が担い。区民が主役のイベントの実施』に変更

≪演奏家を登録制にして、必要な時に派遣できる制度≫

参加者：演奏家に限定しなくてもよいのではないか。

⇒『文化・芸術の発信者を登録制にして、必要な時に派遣できる制度』に変更

≪多様な区民が創り出すアート活動≫

⇒『多様な属性をもつ区民が創り出すアート活動』に変更

○文化・芸術の発信者のための相談方法の充実

○区民が継続的に参加できるオンライン参加イベントの実施

≪区民に確実に届く情報発信≫より≪文化・芸術の発信者のための相談方法の充実≫に該当するのではないか。

⇒『区民が継続的に参加できるオンライン参加イベントのやり方の相談』に変更

≪後援名義の推進（チラシの配布先の増）≫

参加者：後援名義の推進は文化・芸術の発信者のための相談方法の充実の取組にあたるのではないか。

⇒『後援名義の申請方法チラシの配布先の増)』に変更

⇒『文化・芸術の発信者のための相談方法の充実』の参画と協働の推進から削除及び『文化・芸術の発信者のための相談方法の充実』の具体的取組に追加

○区民に確実に届く情報発信

≪港区社会福祉協議会のサロン活動等、障害者も参加できるイベントを実施≫

参加者：イベントを実施するのは文化・芸術等の担い手側であることを鑑みると、情報発信とは異なる性質を持つのではないか。

⇒『区民に確実に届く情報発信』の参画と協働の推進から削除及び『文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援』の参画と協働の推進に追加

≪区のホームページで、活動団体と区の職員がイベント等で苦労点、工夫したことなどを公開し参考にしてもらう≫

参加者：イベントを実施するのは文化・芸術等の担い手側であることを鑑みると、情報発信とは異なる性質を持つのではないか。

⇒『区民に確実に届く情報発信』の参画と協働の推進から削除及び『文化・芸術の発信者のための相談方法の充実』の参画と協働の推進に追加

(7) めざすべきまちのすがた

キーワードを付箋に記入し各自提出した。提出された意見は以下のとおり。

(新たな意見等) ※今回の会議にて出た意見

- ・ 日本の伝統文化の港
- ・ 若者が参画しやすい文化・芸術の機会
- ・ 伝統とモダンの融合
- ・ よみがえる日本の伝統文化伝統芸能
- ・ 触れる機会がいつでもあるまち
- ・ 心豊かで潤いのあるまち
- ・ 心豊かで潤いのある生活が送られるまち
- ・ O P E NでありP A R Kとなる場所
- ・ 文化が薫まち
- ・ イキイキ・身近・手軽
- ・ 文化芸術を育む心の豊かさ
- ・ 子どもたちが日本文化・芸能を学べるまち
- ・ 誰もが文化・芸術に接することができるまち
- ・ 日本文化・芸能と西洋文化・芸能とのコラボレーションがあるまち
- ・ 多様性の包摂・
- ・ 至る場所で文化・芸術に触れられるまち
- ・ 文化・芸術がさりげなく当たり前のようにあるまち

前回以前の会議にて出たフレーズ（本議事録2、3ページ目参照）と今回出たフレーズをもとに文章を事務局で作成し、メンバー全員が同じ考えで理想の将来像をつくることを確認した。

3 その他

事務局より次回開催日程等及び次回の会議内容の確認を行った。

(閉会)

事務局が第6回グループ会議の閉会を告げ、終了。

4 参考

(1) 具体的な取組 ※前回以前の会議にて出た意見のまとめ

《文化・芸術の発信者への活動場所や機会の提供と支援》

- ・ ホールの空き状況などを情報共有し、還元できる仕組み、コロナ等で公演が中止の場合、会場を区が別の形で使えるようにする
- ・ 文化・芸術に関するクラブ活動に対してプロがボランティアで教えに行く。
- ・ イベントの定例化。
- ・ 文化・芸術祭などのイベントの開催。
- ・ 日本・西洋文化のコラボレーションイベントを、小・中・高の児童、生徒、PTA等地域住民を招いて区立ホールなどで開催。
- ・ フォトコンテストの開催。
- ・ 外国人も自然に参加できる小・中・高生の文化・芸術イベントの実施。
- ・ グループホームなどオンラインでの演奏会の実施。
- ・ 文化芸術ホールで港区らしいイベントを企画する。
- ・ 野外コンサートのようなイベントが数多く開催する。
- ・ 他の自治体とコラボレーションイベントの開催。
- ・ 小学校での日本文化教室によって本物を触れさせる。

《文化・芸術の発信者のための相談方法の充実》

- ・ 区民が継続的に参加できるようオンラインの充実を図る。
- ・ 文化・芸術団体が実施するプログラムの相談を受けられる窓口の設置。
- ・ 継続的な支援（助成金）の実施。
- ・ イベントの具体的な提案を受けられる窓口の設置（内容、時期、場所）。
- ・ まちの至る所で演奏が可能になるよう、行政手続きを簡素化する。
- ・ 海外の演奏家を推薦や審査するような仕組み。

《団体に確実に届く情報発信》

- ・ 情報を整理し広報を一本化する。
- ・ 港区の特性とリンクした表現による文化情報発信。
- ・ 区民の文化・芸術のニーズをデータベース化。
- ・ 地区ごとに文化の色を出す（専門店化）。
- ・ 映像を流すと外国人方にも関心を持ってもらえるのではないかな。
- ・ 若者の未来につながる仮想空間の模索、新しい文化へ。
- ・ 外国人には情報を映像で提供する。

(2) めざすべきまちの姿（将来像）※前回以前の会議にて出た意見のまとめ

- ・ 区民一人ひとりが日常から文化・芸術にふれる機会がありイキイキと生活している。
- ・ 多様性を認め合いよりよい形に協働しながら作り上げていくことができる環境があるまち。
- ・ 区内にあるホールで、イベント入れ替え時の空き時間に、区の文化・芸術のイベントを実施す

る。

- ・ 海外の著名な演奏家を積極的に招聘するための補助金制度があるまち。
- ・ 日本の演奏家がもっと育つように育成プログラムをつくる。
- ・ 仮想空間を活用した文化・芸術の場を模索することができるまち。
- ・ 若者が参画しやすい文化・芸術の機会の提供があるまち。
- ・ まちの至る場所で演奏家が気軽に演奏でき、アートの作品が街中で、さりげなく、当たり前のようにあるまち。
- ・ 江戸文化とモダン文化が円環するエコトーンのある場所をつくる。
- ・ 野球場が「ボールパーク」と言われるように「OPEN」であり「PARK」であること、劇場・ホールも「登竜門」である場、市井の人が参加できる、アマチュア、一般人が初めの一步を踏み出す場、成長する場があるまち。
- ・ 日本文化と西洋文化とのコラボレーションイベントがあるまち。
- ・ 西洋文化と日本文化が混在し、貧富の差があっても幸福感があり楽しめるまち。
- ・ 文化芸術を通して豊かさを育み、大使館を身近に感じられる国際都市をめざすまち。
- ・ 子どもたちが日本文化を学べるまち。
- ・ 非金銭的支援が拡大されるまち。
- ・ 手軽に文化・芸術に接することができるまち。
- ・ 日本の伝統文化が港区の至る場所で触れられるまち。
- ・ 中学・高校・大学の文化祭へ出張茶会コンサートができるまち。
- ・ 一流のアーティストを招くことができる超一流の文化・芸術ホールがあるまち。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第7回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和4年12月27日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室

メンバー：8名

事務局：対応部門関係課長1名（太田貴二課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー2名、
委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 第7回グループ会議の進め方について
- 2 提言書（案）の説明
- 3 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
資料1	国際化・文化Gテーマ「外国人へのサポートの充実」提言書案
資料2	国際化・文化Gテーマ「文化芸術に触れる機会の創出と支援」提言書案
資料3	第5回議事録
資料4	第6回議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

第5グループリーダーより開催宣言、事務局より第7回グループ会議開催に当たっての挨拶及び前回(第6回グループ会議)の振り返りを行い、参加者同士でこれまでの活動について意見交換を行った。

(振り返りコメント)

参加者：7回も会議を重ねられたことが感慨深い。参加者の様々な意見を聞くいい機会となった。

この会議を通して、自分の視野を広げることができ、すごく自分のためになったと思う。

参加者：参加者が減ることなく、会議を続けられることができ良かった。仕事としてワークショップの経験があるが、この会議を通して意見をまとめあげる難しさも改めて感じた。

参加者：意見交換も活発に行われ、会議の雰囲気も穏やかで参加して良かったと思う。今回提言したことが良い結果になれば良い。

参加者：回を重ねてたくさんの方の知見に触れることができ良かった。様々な角度から課題を検討することができた。参加者同士で親しく会話もできて楽しかった。

参加者：会議を通して、このグループのテーマ(国際化・文化)に関する情報に興味をもつようになった。このまま提言までやり遂げたい。

参加者：参加者が減ることなく、会議を行えて良かった。他人の考えを知る良い機会となり、視野を広げることができたと思う。これからも柔軟な思考を心掛けたい。

参加者：毎回参加が楽しみだった。ユニークな意見等様々な意見が出たが、それぞれを関連づけてまとめることができ感心している。提言に対して、それぞれが自分の意見をしっかり持っている良いグループだったと思う。事務局の運営にも感謝したい。

参加者：様々なバックグラウンドのみなさんとの交流を通じて、新しいアイデアや考え方を知れて視野が広がった。また港区が国際交流と文化のため既に工夫された活動や取組を考えて実行していることを知ることができて、港区民としてありがたい。

事務局：活発に意見が出る、議論内容も濃い素晴らしいグループだったと思う。港区(行政側)が気づけない観点の意見等、様々なエッセンスを出していただいたので良い提言ができると思う。

1 第7回グループ会議の進め方について

事務局より、グループ会議の目的・目標及び当日の会議内容について説明を行った。

2 提言書(案)の説明

(1) 「外国人へのサポートの充実」提言書案について

テーマ1「外国人へのサポートの充実」提言書案について、資料1を基にこれまでの討議内容が反映されているか確認した。

(主な意見等)

○具体的な取組「やさしい日本語」の浸透について

参加者：「やさしい日本語」の浸透とあるが、港区では「伝わる日本語」の取組も行っている。使用に関して港区のルールなどあるのか。

事務局：区は従前から「やさしい日本語」の取組を行ってきたが、今年度から区役所の専門用語や難しい表現を使った区民向けの文書を、外国人や高齢者、若い方など様々な受け手に分かりやすく、親しみやすい文書に改善するため、「伝わる日本語」の取組も行っている。提言書には、様々な国籍の外国人にもわかりやすいように「やさしい日本語」としている。「伝わる日本語」に「やさしい日本語」も含まれており、今回皆さんにご議論いただいて、提言書に追記いただいてもかまわない。

参加者：参加者：提言書を読む前に予備知識がないと「やさしい日本語」という表現に違和感がある。港区は以前からこの言葉を使ってきた経緯があるのか。

事務局：提言書の中に、国籍は関係無くという議論もあったので、事業に落とし込むのであれば、「やさしい日本語」を外国人にレクチャーしようという位置付けになる。提言書は広くとらえる形で、港区が進めている「伝わる日本語」をあえて使ったという形でもかまわない。区民目線でどちらがわかりやすいか、最終的には皆さんのご判断に委ねる形になる。

参加者：港区国際交流協会の事業で、「やさしい日本語講座」のチラシを見た。「伝わる日本語」よりも周知は高いのではないか。

参加者：「伝わる」という表現は、発信側（港区側）に寄った表現に思える。また「伝わる」という表現は上の者から下の者へ伝えるイメージが強い。

事務局：行政は情報を区民に伝えるのが下手というのが課題であり、自戒の意味も込めて「伝わる」という表現を使用している。

⇒変更なし（「やさしい日本語」で統一）

○計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像の説明について

参加者：「共生できる日本一の国際都市」という表現があるが、あえて日本一にこだわる必要があるのか。

参加者：基本計画の目標とすれば具体的に「日本一」で良いのではないか。都内でも港区は国際的な都市という認知が既にあるが、区は消極的ではないか。目標としてもっと前面に出した方がメリットがあるのではないか。港区は自慢できる事がたくさんあるが、目立ちたくないのか、遠慮しているのか。

参加者：国際的な試合やイベントでも順位をつけることに対して消極的な風潮になってきている。「真の国際都市」や「21世紀型の国際都市」といったおおらかな表現のほうが適しているのではないか。

参加者：なにをもって日本一と定義するのか不明瞭。入れなくてもよいのでは。

参加者：「世界に誇れる」という表現のほうが適していると思える。

参加者：港区側にも意識してもらいたいので「世界一」という明確かつ大きな目標を掲げたほうが良い。

参加者：ここで時間費やすのもいかがか。日本一であってもなくてもどっちでも良い。

⇒結論が出なかったため保留、次回の会議で討論予定

○踏まえるべき社会変化 多民族化社会 について

参加者：入管法の改正とは具体的にどのような内容なのか。

事務局：「出入国管理及び難民認定法」が平成 30(2018)年に改正された。在留資格の「特定技能」が創設された経緯がある。

参加者：理解した。

○実現に向けた課題 孤立化・孤独化 について

参加者：心のケアを十分に行うとあるが、その対象者は外国人の児童や高齢者で合っているか。

事務局：対象は、外国人の児童や高齢者である。

⇒『外国人の児童や高齢者などへの心のケアを十分に行う必要がある』へ変更

○参画と協働の推進 民間企業との連携 について

参加者：「企業等との連携により～研修あるいはセミナーを開催する。」とあるが、企業との具体的な連携は実績があるのか。

事務局：提言書案に記載されている研修やセミナーは現在行っていないが、「MINATO Blossom Festa～みなとでつなぐ世界の輪～」を国際化推進係がTBSと連携した実績はあるので不可能ではない。また、「企業等」となると、港区国際交流協会も含むので問題はないと考える。

○参画と協働の推進 関係機関と連携 について

参加者：社会福祉協議会はどのような活動をしているのか。あまり周知されていないのではないように思えるが、このまま記載するか否か。

参加者：社会福祉協議会とは地域福祉の推進する非営利の民間団体。高齢者や障害者支援や地域生活課題を解決するため、各地域でひとり暮らし高齢者や、障害者、子育て中の方を対象としたサロン活動など社会福祉活動として様々な活動をしている

⇒変更なし

(2) 「文化芸術に触れる機会の創出と支援」提言書案について提言書(案)の説明

テーマ2「文化芸術に触れる機会の創出と支援」提言書案について、資料2を基にこれまでの討議内容が反映されているか確認した。

(主な意見等)

○全体を通して

参加者：「文化芸術の発信者」という表現は分かりにくい。

参加者：芸術家含めて発信者という表現は、実際芸術活動している方に失礼ではないか。

参加者：アーティストは、芸術家より裾野が広がるイメージになるし、普通に使う。わかりやすいのではないか。

参加者：アーティストという表現だと西洋文化的なイメージに寄ってしまうのではないか。

事務局：文化芸術基本法の基本理念には「文化芸術活動を行う者」と明記してある。

参加者：文化芸術活動家かどうか。

⇒(全体を通して)文化芸術の発信者を『文化芸術活動家』へ変更

○実現に向けた課題 について

参加者：発信者という文言が多用されすぎている。

⇒『新型コロナウイルス感染症等の影響により、文化芸術の機会が不足している』へ変更

『文化芸術活動にチャレンジしやすい環境が必要』へ変更

『文化芸術活動家の育成が必要になっている。』へ変更

○施策の方向性について

参加者：発信者という文言が多用されすぎている。

⇒『文化芸術活動家や区民等に向けた機会を提供する・様々なアプローチで活動の機会を提供する。』

へ変更

『文化芸術活動家への支援や相談場所の充実・活動するに当たって、創造の場と様々な相談をすることができる環境を整備する。』へ変更

『文化芸術活動家や区民等に届く情報発信』へ変更

○参画と協働の推進 大使館と連携した情報発信 について

参加者：「映像」に補足説明があったほうが良いのではないかと。大使館が文化芸術の映像を作ってアーカイブ化するなど規模が大きいイメージがある。以前の議論では、外国人に情報を映像で提供して見てもらう方が、文字資料を提示するよりもわかりやすいのではないかと、というイメージがあった。

⇒『大使館と連携し、動画をSNSで発信するなど外国人にも文化芸術の取組が伝わりやすいよう工夫する』へ変更

○計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像 について

参加者：文化芸術に触れる機会や、相談場所の充実とかあるが、もっと文化芸術を創造してもらおう機会を区に提供してもらいたい。例えばニューヨークでは倉庫街の倉庫の壁にアートの作品があるが、そのような文化芸術を創造することも必要ではないか。

参加者：「港」の意味については、情報発信や、自治体と連携して情報を受けとるばかりではなく、常に世界に向けて発信するイメージではないか。

⇒『オープンな環境の中で文化芸術活動家がいきいきと力を発揮し、文化芸術を創造できる「港」となれるようなまちをめざす』へ変更

⇒『活動するに当たって、創造の場と様々な相談をすることができる環境を整備する』へ変更

○具体的な取組について

参加者：文化芸術の支援において、創造する側(活動する側)と享受する側(感じる側)の双方にアプローチすることが重要。

⇒『文化芸術を創造し、享受できる機会の創出』へ変更

参加者：施策の方向性で創造する場の提供を挙げるのであれば、具体的な取組にもその旨を盛り込む必要がある。

⇒『文化芸術を創造する場を設ける』を追加

参加者：文化芸術を創造することを支援するのであれば、企画や内容等より具体的な事柄を相談できるようにすることも提言書に盛り込んでもいいのではないかと。

⇒『文化芸術について、プログラムなども相談できる場を設ける』へ変更

3 その他

事務局より次回の開催日程等及び次回の会議内容の確認を行った。

(閉会)

事務局が第7回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上

みなとタウンフォーラム
国際化・文化グループ（第5グループ）

会議録（第8回）

■開催日時・場所・出席者

日時：令和5年1月10日（火）18時30分～20時30分

会場：港区役所3階 産業・地域振興支援部会議室

メンバー：8名

事務局：対応部門関係課長2名（太田貴二課長、矢ノ目真展課長）、企画課グループ担当2名、サポートメンバー3名、委託事業者2名

■次第

（開会）

- 1 第8回グループ会議の進め方について
- 2 提言書の確認について
- 3 「提言に当たって」の確認について
- 4 提言式に向けた今後の流れについて
- 5 その他

（閉会）

■配付資料

資料番号	資料名
資料1	テーマ1「外国人へのサポートの充実」提言書案
資料2	テーマ2「文化芸術に触れる機会の創出と支援」提言書確定版
資料3	「提言に当たって」案
資料4	みなとタウンフォーラム提言式に向けた進め方について
資料5	提言式プレゼン資料案
資料6	第7回議事録

■貸与資料

資料番号	資料名
1	港区基本計画・港区実施計画

■会議要旨

(開会)

第5グループリーダーより開催宣言、事務局より第8回グループ会議開催に当たっての挨拶及び前回(第7回グループ会議)の振り返りを行った。

1 第8回グループ会議の進め方について

事務局より、グループ会議の目的・目標及び当日の会議内容について説明を行った。

2 提言書の確認について

(1) 「外国人へのサポートの充実」提言書案について

テーマ1「外国人へのサポートの充実」提言書案について、資料1を基にこれまでの討議内容が反映されているか、前回の会議にて保留となっていた事項について確認を行った。

○計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像の説明について

(主な意見等)

≪共生できる日本一の国際都市について≫

前回(第7回)の会議にて「日本一」という文言について複数の意見があり保留となった。再度意見交換を行った。

参加者：国内だけではなく諸外国からも注目される魅力的な国際都市

参加者：世界に誇れるような国際都市(同意見の参加者あり)

参加者：次世代に誇れるような国際都市

(理由) まちづくりとか文化などの基本計画の目標は一日や二日で達成できるものではなく、今度の世代含め全員参加の下で達成できるものではないと意味がない。将来を見据えた目標であれば、次世代のことにも触れるべき。

参加者：魅力のある国際都市

参加者：外国人が自立できる国際都市

(理由) 最終的な目標は誇れるとか、日本一ではなく、行政が外国人をサポートし外国人が日本語を勉強して進学し就職して収入を得てちゃんと生活を送れるようになることではないか。外国人の生活に焦点を当てた方が適しているのではないか。

参加者：案④「外国人が自己実現できる、世界に誇れる国際都市」

案⑤「外国人も自己実現できる魅力的な国際都市」

(理由) 外国人がなりたい自分になれる(=自己実現ができる)ことが重要である。

あげられた表現について意見交換が行われた。意見については以下のとおり。

参加者：「自己実現できる」としたときに、提言書の後半部分に何を盛り込むのか。港区ができること、都や国がやるべきことがあるが、港区ができる外国人が自立できる取組に、具体的な施策がないと中身が無くなってしまう。

事務局：自己実現はかなり強いイメージ。

参加者：自己実現というよりも自立と表現したほうが、イメージが湧きやすいのではないか。

参加者：幸せに生活できることも自己実現に含まれる。

参加者：誇れるとか日本一とかあるが、外国人が港区で、このまちで自立できることが大事。

参加者：多文化共生と言われているが現実はできていないのではないか。外国人が多い港区でできていないのであれば、日本全体の課題となってくる。

⇒『個性や能力など「個」の力が、国籍や文化などの違いを問わず活かされ、誰もが「集まりたい」「住みたい」と思えるよう、『人々が助け合い、外国人も幸せに暮らせる魅力的な国際都市をめざす』へ変更

○計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像

「多文化の人々と自然にふれ合い、思いやりや活気に溢れ、誰もが安心して自分らしさを発揮できるまち」について

(主な意見等)

参加者：案「多様な人々に寄り添い、思いやりや活気に溢れ、誰もが安心して自分らしさを発揮するお手伝いができるまち」、「発揮するお手伝いをするまち」、「発揮できることを応援するまち」

(理由)「多文化の人々と自然にふれ合い」の所に違和感がある。多文化は多様な人々の文化であって、LGBT、高齢者、障害者、国籍関係無く「人」がふれあう、様々な文化のことである。多文化は外国人に使うが、障害者の描いた絵などは多文化とは言わない。また、「自分らしさを発揮する」のはまちではなく、区民である人々が主役、まちはそれらを応援（バックアップ）できる対象にすぎないのではないか。

参加者：たしかに「多文化」という表現は日本語としてしっくりこない。

参加者：多文化は、多様な文化のことではないか。

参加者：最初の参加者の意見の思いは理解できるがここを大きく変更すると、全ての内容について整合性を議論する必要があるのではないか。また、障害者の絵などの話になるとテーマ2の「文化芸術に触れる機会の創出と支援」になってくる。

参加者：ここでは、「外国人へのサポートの充実」をテーマに国際化を議論する場であって多様な人々の文化はここで議論する必要はないのではないか。

⇒『多様な文化の人々と自然に触れあい、思いやりた活気に溢れ、誰もが安心して自分らしさを発揮できるまち』へ変更

○具体的な取組について

≪「やさしい日本語」の浸透≫

(主な意見等)

参加者：「やさしい日本語」とは、小学生レベルなので、失礼な表現にならないか。外国人各々のレベルに応じた日本語を話せるようなサポートが必要ではないか。

事務局：文部科学省の施策として、外国人の生活の利便性を高めるために「やさしい日本語」を推進しており、港区では「伝わる日本語」の浸透に向けた具体的な取組も行っている。

⇒変更なし

(2)「文化芸術に触れる機会の創出と支援」について

テーマ2「文化芸術に触れる機会の創出と支援」提言書案について、資料2を基に最終確認を行った。

○計画最終年度末(令和8年度末)における港区の将来像の説明 について

(主な意見等)

説明：「日常生活の中で様々な文化芸術にふれる機会」について

参加者：案「日常の中で様々なアートにふれる機会」

(理由)文化芸術という表現は少し格式が高いイメージがある。子どもから大人、障害者や高齢者等身近に接するのは「文化芸術」より、「アート」ではないか。より親しみがあり、広義な意味を持つ「アート」のほうが適していると考える。

参加者：「文化芸術」には「アート」という意味も含まれているのではないか。表現は統一した方が良いのではないか。

参加者：「文化芸術」という文言が多すぎるように感じる。

参加者：全て「文化芸術」と統一するのはいかがか。

⇒『世代や国籍、障害の有無などにかかわらず、子どもから大人まで日常の中で様々なアートに触れる機会があり、オープンな環境の中で文化芸術活動家がいきいきと力を発揮し、文化芸術を創造できる「港」となれるようなまちをめざす。』へ変更

3 「提言に当たって」の確認について

事務局より、資料3を基に説明を行った。そこで提言の内容について確認し、「この提言によって〇〇を実現してもらいたいという想い」等について参加者同士で意見発表を行った。また、提言式の発表者も決定した。

○この提言によって〇〇を実現してもらいたいという想いについて

(主な意見等)

≪「外国人へのサポートの充実」について≫

参加者：・日本語の普及(強化)

- ・居場所作り
- ・交流イベント

参加者：・多様な人々と多様な文化

参加者：・地区ごとの個性・独創性

- ・窓口支援の強化(区+ボランティアの協力関係の強化)

参加者：・外国人の居場所づくり

参加者：・孤立する外国人が増えていること鑑み、日本社会に未だ溶け込めていない外国人へのサポート

- ・外国人へのサポートとは日本語能力の向上である。それぞれのレベルで日本語の上達を目指し、日本社会での自立を目指せる環境整備

参加者：・一人ひとりの個が輝いて幸せに暮らすこと

- ・それぞれの生きがいを応援すること

参加者：・交流イベント

- ・(交流を図る)活動をしている機会に多く触れる
- ・外国人に向けた丁寧な情報発信

≪「文化芸術に触れる機会の創出と支援」について≫

- 参加者：・日本自体が文化芸術を育成する予算が減っているため、積極的な創造活動へのサポート
- 参加者：・区民の文化芸術のニーズのデータベース化
- 参加者：・港区版ふるさと納税に「若手芸術家育成資金」を創設
 - ・若手演奏家の登竜門として「みなと音楽コンクール」の開催

○どんな港区にしてもらいたいかという想いについて

- 参加者：・伝統に根ざした豊かな財政に支えられた世界に誇れる港区
- 参加者：・文化芸術を創造し、享受できる機会の実現
 - ・様々な特性を持った外国人の居場所づくり
- 参加者：・次世代を大切にす活気に溢れた発展する港区
- 参加者：・国際化と文化芸術を発信できる「港」をめざす
 - ・国際化と文化芸術の融合
 - ・誰もが安心して自分らしさを発揮できるまち
 - ・誰もが心の豊かさを育めるまち
- 参加者：共通の興味や課題を持ったあらゆる人が国籍関係なく自然と集まれるような空間をつくる
- 参加者：多様な背景の人々に寄り添い、それぞれの生きがいを見つけるお手伝いができるまち
- 参加者：区内の様々な場所・空間において文化芸術を感じることができる機会を創出する

今回出た意見をもとに文章を事務局で作成し、メンバー全員が同じ考えで提言書をつくることを確認した。

4 提言式に向けた今後の流れについて

事務局より、資料4及び資料5を基に提出式に向けたスケジュール等の説明を行った。

5 その他

グループ会議最終回のため、参加者及び事務局はこれまでの会議の感想を発表した。

(コメント)

- 参加者：8回という長い期間、ともに会議を作り上げていただいた参加者の方々に感謝したい。様々な意見を聞くことができ、大変楽しかった。他のグループよりも活発に議論ができたのではないか。
- 参加者：この会議に参加したことで、国際化や文化芸術に関して興味が沸き、新聞などで情報を積極的に収集し学ぶ機会もあった。今も解決すべき問題もあるが、背景にはいろんな社会情勢もあると思った。
- 参加者：全体を通して活発に議論することができて良かった。この会議を支えてくれた事務局にも感謝したい。今までで様々な国を訪れたが、国際都市であると感じた所はロンドン、ニューヨーク、東京で、東京の中でも港区は多様性を認め文化芸術を尊重しており、大使館も多く将来性がある都市だと感じた。
- 参加者：港区は一生懸命活動する人には手厚い支援を行ってくれる。この会議で自分の活動分野について様々な意見を聞くことができたので、今後の活動の糧としていきたい。
- 参加者：良い提言書をつくることができたと思う。この会議で改めてメンバーの選出は重要である

と感じた。事務局側も今回のようなメンバーを選出すると良い提言ができるので認識いただきたい。

参加者：最後まで討論でき全ての方に感謝したい。小さな意見でも話合っていて嬉しかった。

参加者：参加者及び事務局の方々に感謝したい。この会議で討論した内容は提言で終わらせるのではなく、具体的な施策・政策にも反映させていただき、実現させていただきたい。

事務局：今までの会議を拝見し、参加者の皆さんに後押ししていただいていることが分かった。この会議で話し合われた「共生」や「文化芸術」は何にフォーカスすべきか分かりにくいものであるが、皆さんがしっかり話し合われて結論を出している姿には感銘を受けた。区民皆様の生の声を聴くことができ、この貴重な機会を施策等に活かしていきたい。

事務局：最後まで妥協を許さず、積極的に意見交換を行っている姿は素晴らしいと思った。一つ一つの意見や言葉に魂が込められていると感じた。多様な考え方や背景を持った方々が集まったグループの議論は大変興味深いものであった。皆さんの熱い思いがこもった提言を糧に今後の基本計画や港区の行政サービスをより良いものにしていきたい。

(閉会)

事務局が第8回グループ会議の閉会を告げ、終了。

以上